

都市再生整備計画(第6回変更)

こおりまぢれきしてきふうちいじこうじょうちく
桑折町歴史的風致維持向上地区

ふくしまけん こおりまぢ
福島県 桑折町

令和5年10月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	
都市再生整備計画事業	■
まちなかウォークアブル推進事業	

目標及び計画期間

都道府県名	ふしぎけん 福島県	市町村名	こおりまち 桑折町	地区名	こおりまちあきしてきふうちいじこうほうちく 桑折町歴史的風致維持向上地区	面積	534 ha
計画期間	令和	元	年度	～	令和	5	年度
						交付期間	令和
							元
							年度
							～
							令和
							5
							年度

目標

- 悠久の「歴史」「自然環境」や「旧街道の町並み」に魅力を感じ、来訪者が「訪れて楽しい」「住んでみたい」と思えるまちづくり、町民が地域に愛着と誇りを持ち「住み続けたい」と思えるまちづくりを目指します。
- ・「歴史」に彩られた趣のある景観を楽しむ周遊できる魅力と活気あふれるまちづくり
- ・「かわ」と「桃源郷」が織り成す美しい景観や歴史探訪、自然体験、農業体験を楽しむ周遊できるうるおいあるまちづくり
- ・町民や来訪者が集い賑わいあふれる趣のあるまちなかづくり

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

○現況

桑折町は、福島県の中通り北部に位置する人口約12,000人、面積42.97km²の町です。

南北に東北新幹線と東北本線が並行して縦走しており、また、東北縦断自動車道と国道4号が縦断しているなど、交通の要衝の地となっています。現在、平成32年度の開通に向けて、東北中央自動車道・相馬福島道路の整備が進んでいます。町の基幹産業は農業であり、米や果物の栽培が主流となっています。特に、阿武隈川の旧氾濫原を中心に栽培されている桃は上質で、平成6年から25年連続で皇室に献上されています。

○町の変遷

桑折町の中心市街地は、江戸時代の宿場町桑折宿で、東北地方の大名が参勤交代で通った東北地方の二大街道奥州街道・羽州街道の分岐点「追分」があった交通の要衝として栄えました。

鎌倉時代に仙台藩伊達氏の先祖が入部して伊達氏を名乗った「伊達家発祥の地」として知られており、初代伊達朝宗の墓所や平成2年に国の史跡に指定された桑折西山城跡など、ゆかりの史跡が残されており

江戸当時に幕府の財政を支えた半田銀山があり、また、養蚕地帯として江戸や上方でも知られました。年貢米やこれらの絹糸や蚕種、金や銀などの物資は、伊達郡で第一の町場であった桑折宿に集められました。桑折宿には、付近の村の年貢米などを貯蔵するための蔵が立地し、蔵(庫)場と呼ばれていました。ここから江戸や京に送られるときは、桑折河岸や上郡河岸など、阿武隈川の舟運の河岸から出荷できる交通の要所でした。さらには、重要な産物である絹糸の取引市も諏訪神社で定期的に開催されるなど、経済的な中心地として様々な物資の流通も担う重要な役割を果たしてきた「桑折宿」は、人と物が活発に行き交う賑わいのある宿場町として栄えてきました。

こうした地理的・社会的背景により、明治16年には「伊達郡役所」(現在は国指定重要文化財に指定されている)が設置され、伊達郡の政治・経済の中心として、郡制度の廃止後も昭和44年まで福島県の伊達地方事務所が設置されるなど地方行政の中心地となっていました。

町名に「桑」の字が付されていることからわかるように、養蚕業との縁が深く、江戸時代頃から養蚕が盛んになりました。特に伊達崎地区などの阿武隈川氾濫原は、養蚕の飼料となる桑の栽培に適しており、養蚕の原料となる蚕種は、幕府より本場銘を認められていました。ここで生産された生糸や蚕種は、桑折宿に集積され、各地に出荷されていきました。明治期には桑折に「福島県蚕業取締所桑折支所」が設置され、その後、郡製糸桑折工場(後に福島蚕糸販売農業協同組合連合会の工場)などが立地しましたが、時代の変化に伴い平成14年に工場は閉鎖され、その面影は旧庭園を残すだけとなってまいりました。

○まちづくりの経緯

桑折町の中心市街地については、昔ながらの街並みを保ってきましたが、空き店舗・空き家の増加、福島蚕糸販売農業協同組合連合会の6haにも及ぶ広大な土地が空地となるなど空洞化が深刻な状況となりました。

平成18年には、住民と行政が一体となって「桑折地区歩いて楽しめる地域づくり懇談会」を結成し、町の賑わいの創出、町並み環境づくりについて検討を進め、地域住民や来訪者が「歩いて楽しめるまちづくり」を通じ地域の活性化を図るべく、都市再生整備計画(第1期)の施策展開が図られ、福島蚕糸跡地の周辺整備、旧伊達郡役所及び桑折駅北側の周辺環境整備などを行いました。

しかし、平成23年に発生した東日本大震災により、旧街道沿いに歴史的な景観を醸し出していた土蔵群などの建物が被災し解体を余儀なくされました。また、まちの「顔」として整備を計画していた福島蚕糸跡地は、一部の事業用地を応急仮設住宅300戸の建設用地として提供し、さらには、災害公営住宅86戸が整備されたため、予定事業を中止や休止とせざるを得ない状況となり、平成21年度から開始した都市再生整備計画は平成25年度で事業終了となりました。

本町においても、東日本大震災の影響や本格的な人口減少社会の到来により、まちづくりの主役となる「人」が減少しており、都市機能の郊外化により、「人」をまちなかに呼び込むことが難しくなっています。

そのような中、先人から受け継いできた町の「よさ」「らしさ」を再認識し次世代に残すとともに、桑折西山城跡を中心とする伊達氏発祥の地の史跡群や、震災後の解体をまぬかれた桑折宿の古い建造物群、かつては養蚕を支えた桑畑であり、現在は桃源郷とうたわれる高品質なモモなどを生産する阿武隈川氾濫原の果樹畑と桑折宿を中心とする地域の物資を江戸・上方へ出荷した河岸の跡などの歴史的資源の活用により町の活性化を図るために「桑折町歴史的風致維持向上計画」を策定し、各種事業の推進に取り組んでおります。

さらに、歴史的風致維持向上計画に重点区域として位置付けられている「阿武隈川氾濫原」については、国と町が連携し、町や地域住民との連携のもとで立案された、実現性の高い河川や水辺の整備・利活用計画による、良好なまちと水辺が融合した空間形成の円滑な推進を図る「かわまちづくり支援制度」に登録され、まちなかと阿武隈川を繋ぐ、桑折町の歴史と水辺を活かした観光ネットワークの形成が求められています。

課題

【交流人口の拡大】

・定住人口や交流人口が流動的な現在の都市間競争の中で、本町特有の歴史的資源や恵まれた自然環境を活かした独自のまちづくりを推進し、交流人口の拡大による賑わいの創出及び定住人口の維持を図ることが喫緊の課題となっています。

【歴史資源・自然資源の活用】

・「史跡桑折西山城跡」や「万正寺の大カヤ」などの魅力ある歴史資源は、周辺環境の整備が進んでおらず、気軽に訪れることができない状況にあり来訪者の増加につながっていません。

・歴史的な景観を醸しだしていた旧街道沿いでは、現存する歴史的建造物を修復・修景し保存・活用を図り、歴史的風致の維持や交流人口の拡大による賑わいの創出が必要です。

・かつて舟運の河岸が設置されていた「阿武隈川」と、廻米用の米や大豆の保管用の蔵(庫)場があった「旧桑折宿」は密接な関係にありましたが、その認識度が低いと、歴史的風致の維持と交流人口の拡大のために、「かわ」の水辺空間や氾濫原に広がる「桃源郷」を活用し、改めてまちなかとの連携を図る必要があります。

【周遊性の向上】

・各歴史資源などの案内板・説明板などは老朽化が進むとともに、デザインも統一されていないため、周遊性が低く、来訪者数の増加につながっていません。

・旧街道沿いのルート上には、来訪者に町の歴史を案内するガイダンス施設や、散策の途中で休める場所が無く、利便性や周遊性が低い状況にあります。

・町内に分布する歴史資源・自然資源は距離が離れており、車で来訪者が多いため、駐車場の整備や地域資源をネットワーク化する案内板等の設置、などにより、周遊促進を図る必要があります。

・阿武隈川氾濫原に広がる果樹地帯「桃源郷」には、春に桃の花が醸し出す田園景観を背景に誘客促進イベントが行われ多くの方々を訪れています。旧桑折宿を初めとした各地域資源への周遊性が低い状況となっています。

・史跡桑折西山城跡を含めた歴史散策、旧桑折宿の歴史的な町並み、阿武隈川の水辺空間や田園景観といった性格の異なる資源の連携を図り活用していくためには、ターゲットに応じた様々な周遊ルートの設定が必要です。

【周辺景観と調和した「新たな町の中心地」の形成】

・保健福祉施設が隣接する「旧中学校跡地」には町並み景観に調和する役場新庁舎の建設計画が進んでおり、福島蚕糸跡地には、周辺景観に配慮した災害公営住宅86戸が整備されたほか、町内立地企業による従業員寮建設等が計画されています。桑折駅を含めたこの周辺エリアを「新たな町の中心地」として形成するために、都市再生整備計画(桑折中央地区)で計画され休止した公園・ポケットパーク・道路整備事業を再開する必要があります。

将来ビジョン(中長期)

・平成26年度に改定された「桑折町都市計画マスタープラン」では、町の将来像において、コンパクトな市街地形成による「持続していくまちづくり」、多世代が定住していく「住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり」、桑折の資源を活かした「歴史・風土などの個性を活かしたまちづくり」、町民が来訪者と交わる「町民自らが参加し、楽しみ・もてなすまちづくり」などのテーマを目標としたまちづくりを進めています。

・平成27年に策定された「桑折町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、「安定した雇用の創出」、「新しい人の流れの創造」、「若い世代の子育ての希望」、「時代にあった地域づくりと地域間連携」の4つのテーマのもとに、少子高齢化、人口減少時代における持続するまちづくりを目指しています。

・平成28年には、桑折の風土や歴史的背景を踏まえ「桑折町歴史的風致維持向上計画」が策定され、伊達氏発祥、桑折宿と祭礼、西根堰や阿武隈川の水辺の歴史など多角的な検証による桑折の歴史的な重要性が改めて見直され、歴史的風致の維持向上に係る計画に沿った事業の推進に取り組んでいます。また、同計画でも位置づけられている阿武隈川の氾濫原における「こおり桃源郷」を含めたピーチラインの形成が農業事業で進められるとともに、「桑折地区かわまちづくり計画」によって阿武隈川の沿川整備が進められることとなり、歴史的背景と自然を活かし、まちなか(旧桑折宿)を結ぶ桑折町の観光ネットワーク形成を目指しています。

・平成28年12月に策定した桑折町総合計画「献上桃の郷こおり創生プラン」では、町の未来像を『みんなとつながり みんなが活躍できる 安心のまち桑折～21世紀の追分 夢と活力に満ちた「こおり新時代」の幕開け～』として、「献上桃の郷」、「21世紀の追分推進」、「歴史まちづくり推進」、「町民のための庁舎整備」の4つの重点プロジェクトを進めています。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
入館者数	(人/年)	町のシンボリック建造物である旧伊達郡役所入館者数	歴史資源・自然環境の整備・活用により魅力の増進を図り、来訪者の増加を図る。	5,594人	H29	7,000人	R5
歩行者数	(人/1日)	まちなかの中心軸である旧奥州街道(一般県道国見福島線)の休日(昼間)の歩行者数	歴史資源・自然環境の整備や各スポット間の周遊ネットワークの形成により、まちなか(桑折宿)への周遊者の増加を図る。	202人	H30	260人	R5
まちづくり満足度	(%)	アンケート調査における満足度のうち、「身近な公園・緑地・広場の充足度」に対する住民満足度	「新たな町の中心地」に広場やポケットパークを整備することにより、町民のまちづくりに対する満足度を高める。	72.9%	H27	80.0%	R5

整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>①歴史的資源の整備・活用と良好な町並み景観の形成による交流促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町が誇る「旧伊達郡役所」「史跡桑折西山城跡」「万正寺の大カヤ」など、歴史的資源の周辺にアクセス道路や駐車場、案内板等を整備し、来訪者のアクセス性の向上を図り、交流人口の拡大を図ります。 ・文化保存団体等の活動拠点機能や、来訪者への歴史・観光案内機能を持つガイドンス施設を整備し、交流人口の拡大及び町内全体への周遊促進を図ります。 ・案内板等の整備拡充や更新により、歴史的資源を相互に連携させる周遊ネットワークの形成を図り、来訪者の周遊を促進します。 	<p>○基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡桑折西山城跡周辺整備事業【道路・地域生活基盤施設・高質空間形成施設】 ・万正寺の大カヤ周辺整備事業【地域生活基盤施設】 ・旧伊達郡役所周辺整備事業【高質空間形成施設・高次都市施設】 <p>○関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡桑折西山城跡整備事業 ・歴史案内人育成事業 ・歴史・文化財を活かしたまちづくり推進事業
<p>②「かわ」と「桃源郷」が織りなす景観や、「かわ」の歴史と水辺資源を活用した交流促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿武隈川の水辺資源を活かした魅力的な空間を創出するとともに、果樹地帯が広がる旧河川の氾濫原には案内板、誘導板、トイレ、ベンチ、坂路など周辺環境整備を行い、来訪者の利便性向上による交流人口の拡大を図ります。 ・美しい景観を活用した周辺散策イベント等に加え、水辺空間を活用した新たな自然体験イベント等を実施し、交流人口の拡大と周辺地域の賑わい創出を図ります。 ・舟運の河岸があり桑折宿と密接な関係にあった阿武隈川の歴史を伝える説明板等を整備し、来訪者の関心を惹きつけるとともに、周遊ネットワークの形成を図り、桑折宿への周遊を促します。 ・阿武隈川と桑折宿をつなぐウォーキング・サイクリングルートの設定やイベントの実施により周遊を促進します。 	<p>○基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桃源郷周遊性向上事業【道路・地域生活基盤施設・高質空間形成事業・既存建造物活用事業】 <p>○関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿武隈川親水護岸整備事業 ・阿武隈川散策路整備事業
<p>③周辺景観と調和した「新たな町の中心地」の形成と賑わい創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和初期の面影を残す福島蚕糸跡地の旧庭園を修景保存した広場を整備し、来訪者や町民の交流を促進し賑わいの創出を図ります。 ・歴史的な町並みを形成している旧街道と福島蚕糸跡地を繋ぐ景観に配慮した道路を整備し、賑わいの創出を図ります。 	<p>○基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町道2002号線【道路】 <p>○関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役場新庁舎建設事業 ・旧庭園を活用した広場整備事業 ・町内立地企業従業員寮建設事業

その他

○歴史的資源の整備・活用と良好な町並み景観の形成による交流促進

「桑折西山城跡整備計画」に基づき、史跡桑折西山城跡整備事業が進んでいます。また、桑折町歴史案内人育成講座を修了したボランティアガイドの活躍や、毎年開催している歴史まちづくり講演会には多くの町民が参加しているなど、歴史的風致への理解が高まっています。

○「かわ」と「桃源郷」が織りなす景観や、「かわ」の歴史や水辺資源を活用した交流促進

「阿武隈川氾濫原と果樹栽培に見る歴史的風致」については、都市計画マスタープランにおいても「水辺と桃の資源を活かしたグリーンツーリズムの拠点づくり」を目標に掲げており、これまでに阿武隈川と春の桃の花が織りなす景観を活用したイベント（「ビーチロード」を歩くイベント、満開の桃畑でのバーベキューイベント、サイクリングイベント）や、カヌー体験、健康ウォーキングイベントなど四季を通して様々なイベントが行われています。

また、平成30年3月に「桑折地区かわまちづくり計画」が登録され、令和元年度から国土交通省により親水護岸整備事業、高水敷整正、散策路整備事業（管理用通路兼用）など、水辺空間形成の円滑な推進が計画されているため、町も同時に事業を計画し、相互に整備効果を高める必要があります。

旧河川の氾濫原にある食と農の交流体験や観光案内の拠点施設「レガレこおり」には、地元食材を使った料理（ピザ）の飲食や調理体験、地元農家が栽培した野菜の直売市（マルシェ）、農業体験を目的に、町外から多くの方々が訪れ賑わっているため、桃源郷周辺の環境整備を行うことにより連携を強め、桃源郷や桑折宿への周遊促進を図っていく必要があります。

<p>桑折町歴史的風致維持向上地区(福島県桑折町)</p>	<p>面積</p>	<p>534 ha</p>	<p>区域 福島県伊達郡桑折町字赤川原、字上町、字和尚堂、字落合、字仮屋、字北町、字桑島一・二・三・四・五、字庫場、字沢、字三角、字佐野、字芝堤、字陣屋、字新町、字新吉町一・二丁目、字下釜、字砂子沢二・三・四、字諏訪、字堰合、字館、字寺坂一、字道場前、字西大隅、字西段、字西町、字東大隅、字東段、字町裏、字本町、字寺坂二、字南町、字新和町大字平沢・成田・万正寺・上郡・下郡・伊達崎・南半田・谷地の一部</p>
-------------------------------	-----------	---------------	---

